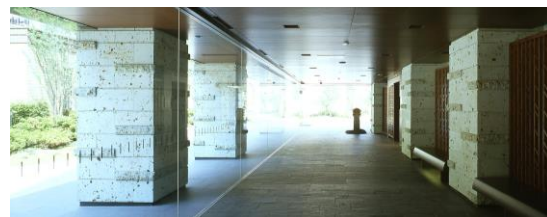


- もう1つの格闘した点は、江戸川APと正面から向き合う事であった。「江戸川アパートメントの建替とは」を熟読し、改めて「都市居住とは」「集合住宅とは」「コミュニティーとは」を我々に問い直させた。江戸川APがそうであったように、今回の建替計画もこの集合住宅独自の風景の創出を試みた。縄目模様のせつ器質三丁掛タイルの外壁、翼のようなキャピラーと大谷石の柱、借景を北側の光と共に差し込むコト空間、花梨材の壁と玄昌石の床・木質の天井で構成されたエントランスホールとそれに続くピロティ空間、そして路地空間へ繋がるシークェンス。これらは、建物、庭、アプローチ(路地)の一体化的な風景の試みでもあった。



エントランス ファサードとキャピラー



コト



縄目模様のタイル



コトから望む前庭



センターコート

住戸形式においても江戸川APの住戸(260戸)が、独身部と家族部にわかれ家族部だけでも30タイプ(和・洋)程創られたが、今回の建替計画も20㎡~100㎡まで57タイプを設け、更にその中には階高3.8mのSOHOタイプやスキップ型の戸建形式を創り出している。



住戸 (1)



住戸 (2)



住戸 (3)